



2020年度 赤い羽根福祉基金

「盛和塾 社会人定着応援プログラム」

事業のご報告

「盛和塾 社会人定着応援プログラム」について

中央共同募金会では、**2018** 年度より、盛和塾塾生の皆さまからのご寄付を財源として、「赤い羽根福祉基金 盛和塾社会人定着応援プログラム」を開始しました。

本プログラムは、盛和塾塾長である稲盛和夫氏の「社会的養護(*)が必要な子どもたちの真の幸せ」を願う想いを受け、児童養護施設の退所者が、自らの未来に希望を抱きつつ、社会人として生きがいを感じながら生活していけるよう支援を行うことを目的に設立されたものです。

全国児童養護施設協議会の調査報告書によると、児童養護施設を退所した者のうち、半数以上が高校卒業後は親からの支援を受けられず自活することが求められています。(**)

そのため、本プログラムでは、高校卒業時に児童養護施設を退所して大学や専門学校等で学ぶ者に対し、就職活動にかかる費用を応援する「就職活動応援助成」および国家資格等の取得にかかる費用を応援する「手に職つけよう応援助成」を実施しています。

また、2020年度には、新型コロナウイルス感染症対策の影響でアルバイト等を減らされ経済的に厳しい状況に直面している学生が増えてきたことをふまえ、学費や生活費を支援する「新型コロナウイルス対策緊急助成」事業を実施しました。

さらに、大学や専門学校への進学に関わらず、就職後になんらかの理由で離職してしまった者が、再就職をめざす際にかかる費用および支援を行う機関の活動費を応援する「リスタート応援モデル助成」事業を2か年にわたり実施しました。

*社会的養護とは、保護者のない児童や、保護者に監護させることが適当でない児童を、公的責任で社会的に養育し、保護するとともに、養育に大きな困難を抱える家庭への支援を行うことです。

**「令和元年度 児童養護施設入所児童等の進路に関する調査報告書」（全国児童養護施設協議会）参照。

就職活動応援助成(2018年度より実施)

児童養護施設を退所して進学した者の在学中の就職活動にかかる費用として、一人あたり10万円を助成する。

手に職つけよう応援助成（2019年度より実施）

児童養護施設を退所して進学した者が、国家資格等の取得を目指して学ぶ際に必要とされる費用として、一人あたり10万円を助成する。

新型コロナウイルス対策緊急助成（2020、2021年度のみ実施）

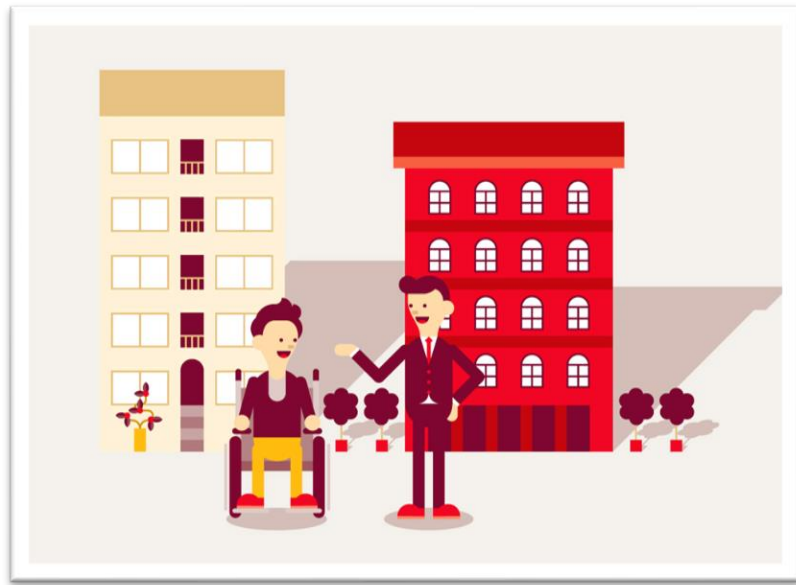
児童養護施設を退所して進学した者で、新型コロナウイルス対策のためアルバイト等の収入が減少し、経済的に困難な状況に直面している者の学費または生活費として、一人あたり10万円を助成する。

リスタート応援モデル助成(2019、2020年度で実施)

児童養護施設等の退所者が、就職後さまざまな理由で就労継続が困難となり離職した場合、家族等の支援がない中で再就職をめざすための費用と伴走支援を行う施設、機関の費用を助成する。上限は1ケースあたり30万円、1施設・機関で180万円までである。

就職活動応援助成

児童養護施設を退所して進学した者の在学中の就職活動にかかる費用として、一人あたり10万円を助成する。



< 2020年度助成実績 >

助成対象者74名・助成総額740万円

< 助成金の使いみち >

就職活動時の生活費、スーツ等の被服費、旅費 等

< 助成を受けた学生から寄付者の方へのメッセージ >

専門学校2年生/女性

この度はご支援をいただき誠にありがとうございます。
もともとはアルバイトをして学費の一部を補填するつもりでしたが、助成金のご支援があり、今では学業に集中して取り組んでおります。就職活動中では、志望していた企業の最終面接にも臨むことができました。最後まで真面目に学校生活を送り、就職後も立派な社会人として自立できるよう努力いたします。ご支援をくださったすべての方々に心よりお礼申し上げます。

大学4年生/男性

つらい時こそ、頑張る!! 正直、一人じゃここまで来れませんでした。光がなかった日常が、今こうして毎日が楽しく、将来へ挑戦していけるのも、寄付をくださった皆様のおかげです。施設出身ということは弱みではなく、私たちにしか体験できなかった武器である。今後は、私もたくさんの人を支援していきます。本当にありがとうございました。

手に職つけよう応援助成

児童養護施設を退所して進学した者が、国家資格等の養成課程を有する大学等で、当該資格の取得を目指して学ぶ際に必要とされる費用として一人あたり10万円を助成する。

< 2020年度助成実績 >

助成対象者76名・助成総額760万円

< 助成金の使いみち >

国家資格等の取得に必要な備品費、教科書・参考書購入費、講座・模試受験料 等



< 助成を受けた学生から寄付者の方へのメッセージ >

短期大学2年/女性/保育士資格取得

この度は、このような機会に恵まれて本当に助かりました。施設出身のため、金銭関係でなかなか頼れるところもない中で、今回の助成金をいただけてとても支えになりました。ありがとうございました。働いて社会に還元できるよう頑張ります!!!

専門学校3年/男性/理学療法士資格取得

支援により、勉強時間をより多く確保することができ、成績も上げることができました。国家試験に合格し、理学療法士として次は自分が誰かを支援できるような人になります。支援ありがとうございました。

大学4年生/男性/社会福祉士資格取得

ご寄付してくださりありがとうございました。このコロナ禍でアルバイトなどもなかなかできず、学校での実習などがあってアルバイトをする時間がありませんでしたが、この寄付金のおかげで安定して生活ができました。試験にも合格することができ、合格したことで内定も決まりました。

新型コロナウイルス対策緊急助成（2020、2021年度のみ実施）

児童養護施設を退所して進学した者で、新型コロナウイルス対策のためアルバイト等の収入が減少し、経済的に困難な状況に直面している者の学費または生活費として、一人あたり10万円を助成する。

大学4年生/男性

支援をしてくださり、本当にありがとうございました。私は大学4年生で就職活動で忙しい中、この新型コロナウイルスに立ち向かいました。一人では絶対に乗り越えられなかったと思います。私は皆様に支えられて生きています。元気な姿で自信を持って大学を卒業することが恩返しになると思うので、負けずに進んで、取り組んでいきたいと思っています。



大学3年生/女性

感染症の影響で収入や生活様式が一変し、誰もが戸惑っている状況であっても、私たちのように支援を十分に得られない人々にご寄付をしてくださり、誠にありがとうございます。私はいま将来の夢に向かって努力をしている日々ですが、皆様のよう温かな心を持って、困っている人の力になることが目標です。見えない敵と戦い不安な日々が続きますが、皆様も健康で安心できる日々を送っていただきますようにと願っております。

大学3年生/女性

この度は助成をしていただき、誠にありがとうございます。新型コロナウイルス感染症の流行によりアルバイトの収入が減少し、その中で大学のオンライン授業に対する環境整備などで出費が多くなってしまい、経済的に逼迫してきていたため、なんとか乗り切ることができると思うと感謝の気持ちでいっぱいです。今後は大学の授業に励み、社会貢献に精進してまいります。

<2020年度助成実績>

助成対象者425名・助成総額4,250万円

<助成金の使いみち>

- ・家賃
- ・水道・光熱費
- ・生活費（食費、消耗品費等）
- ・学費（授業料、教科書代等）
- ・オンライン環境の整備（通信費、パソコン代）
- ・交通費（電車代、自動車保険料等）

大学2年生/女性

私たちのためにこのような寄付をしていただき光栄に思います。私たちだけでなく、皆が困っている時期に誰かのために行動できることは本当にすごいと思います。皆様を見習って、困っている人を助けられるような素敵な大人になりたいです。本当にありがとうございました。

リスタート応援モデル助成

児童養護施設等の退所者が、就職後さまざまな理由で就労継続が困難となり離職した際に、家族等の支援がない中で再就職をめざすための費用および伴走支援を行う施設、機関の費用を助成する。（1ケース30万円、施設・機関あたり180万円上限）
また、モデル助成による検証を通して、この助成事業の将来的な全国展開を図る。

<モデル助成先>

○児童養護施設

- ・社会福祉法人至誠学舎立川（東京都）
- ・社会福祉法人クリスト・ロア会 聖ヨゼフホーム（東京都）

○退所児童等支援事業所

- ・特定非営利活動法人チャイルドラインみやぎ（宮城県）

○自立援助ホーム

- ・社会福祉法人昭徳会 自立援助ホーム慈泉寮内 就労支援事業サポートいずみ（愛知県）

○児童家庭支援センター

- ・社会福祉法人一粒会 児童家庭支援センターファミリーセンター・ヴィオラ（千葉県）

<2019年度実績> 助成対象者14名・助成総額233万円

<2020年度実績> 助成対象者9名・助成総額139万円



< 支援対象費用 >

離職に伴う一時的な生活費や居住費、求職活動にかかる交通費・被服費、支援機関による相談支援にかかる交通費・通信費 等

< 支援事例 >

【事例 1】

社員寮のある会社へ就職したが、1年足らずで退職した事例。社員寮を出る必要があるが行き場がないため、モデル助成先による就労支援を行い、本助成金では住居にかかる初期費用や備品の購入を支援した。

支援対象者は自立を強く志望していたため、アパートを確保して自立した生活を送れることを喜んでおり、正社員採用に向けて前向きに取り組んでいる。

【事例 2】

新型コロナウイルスの影響により、会社を解雇された事例。支援対象者は貯金や緊急小口資金等特例貸付を利用してシェルターで生活しながら就職活動をしていたが、手持ち金が底をついてしまったため、本助成事業により転居や就職活動にかかる費用を支援した。

「当初はとても不安でしたが、就職が決まり安定した収入と住居を確保できたことにより、安心して生活できるようになりました。感謝しています。」(対象者の声)